

# 花しょうぶ通り Q&A

## Q. なぜ「花しょうぶ通り」というの？

A. かつては「上恵比須（かみえびす）商店街」といっていましたが、彦根市の花「はなしょうぶ」にちなんで、1996年、「花しょうぶ通り商店街」に改称されました。それ以来、大学やNPOと協力しながら、古いものを生かした新しいまちづくりを展開しています。



6月に開催されるアートフェスタ勝負市

## Q. 袋町ってどんなところ？

A. 江戸時代中期には米屋や塩屋、煙草屋などがありましたが、明治時代以降、彦根を代表する歓楽街として栄えました。現在は、スナックや料亭などが営まれており、狭い路地や紅殻格子の町家がかつての風情を伝えています。ちなみに、大河ドラマ第1作となった舟橋聖一『花の生涯』は、この町で長野主膳と村山たかが出会う場面から始まります。



袋町の町並み

## Q. 江戸時代はどんなところだった？

A. もともとは芹川の流路の一部だったと考えられていますが、江戸時代初期に彦根城ができたとき、町がつけられました。川原町から善利新町にかけての通り（現在の花しょうぶ通りと芹町）は、城下町と中山道をつなぐ道の一部で、たくさんの人やものが往来しました。城下町の東端に位置しているため、家老の下屋敷や足軽組屋敷もありました。

## Q. なぜ“戦国商店街”と呼ばれているの？

A. 彦根には、井伊家の彦根城だけでなく、石田三成の佐和山城というもうひとつの名城があります。これに着目した花しょうぶ通り商店街は、三成や関ヶ原の戦いをテーマにしたイベントを開くなど、まちづくりの中心に戦国時代を据えています。しまさこにゃん（島左近）、いしだみつにゃん（石田三成）、おおたににゃんぶ（大谷刑部）というご当地キャラも生まれ、全国の戦国ファンに愛される商店街になりました。



いしだみつにゃん しまさこにゃん  
(画像提供：やまもとひまりさん)

## Q. 下屋敷には誰が住んでいたの？

A. 井伊家の重臣の屋敷は、彦根城内曲輪（彦根東高校や裁判所などのあるところ）にありましたが、城下町のいちばん外側の地域に下屋敷（別邸）を持っていました。広い敷地に大勢の家臣を住ませたり、馬を飼ったりしていたと考えられます。明治時代になると、大きな屋敷を維持できなくなり、細かく分割されて宅地化が進んでいきました。



脇伊織下屋敷の茶室

## 花しょうぶ通りエリアへのアクセス

JR・近江鉄道 彦根駅から徒歩約15分  
近江鉄道 ひこね芹川駅から徒歩すぐ



## ぶらひこねマップ的 まち歩きのポイント

### 1 町家のデザインを楽しもう



町家の細部をじっくり観察すると、虫籠窓や格子などの独特の意匠を楽しめます。ウダツは、火事が隣の家から燃え移るのを防ぐためにつけられました。大屋根より上に突き出ているのが本ウダツで、彦根では数軒しか残っていません。壁だけのものを袖壁といい、内側には様々な模様がついています。袖壁に小屋根をのせた袖壁ウダツというタイプもあります。

### 2 小さな発見を楽しもう

屋根の上の守り神である鍾馭（しょうぎ）さん、道端から人々を見守るお地蔵さんなど、まちには小さな宝物がたくさんあります。古地図と見比べながら歩くと、江戸時代の水路がそのままの位置に残っているなどの発見もできます。



鍾馭さん

2014年2月23日 初版発行  
2015年9月1日 第2版発行

制作 まち遺産ネットひこね [http://www.geocities.jp/machiisan\\_hikone/](http://www.geocities.jp/machiisan_hikone/)  
(文・写真 鈴木達也)

### 参考文献

『新修彦根市史 第10巻 景観編』（彦根市、2011年）／『新修彦根市史 第11巻 民俗編』（彦根市、2012年）／『新修彦根市史 第12巻 歴史・年表』（彦根市、2013年）／『彦根市河原町井町地区伝統的建造物群保存対策調査報告書』（彦根市、2011年）彦根史談会編『城下町彦根―街道と町並―』（サンライズ出版、2002年）

このマップの第2版は、井伊直弼公生誕200年祭市民提案事業補助金により制作しました。「御城下惣絵図」は、彦根城博物館の許可を得て掲載しています。また、商店街の写真の一部を、和田一繁さんより提供いただきました。作成にあたり、彦根市教育委員会文化財課の井伊岳夫さん、深谷覚さん、そして地域の皆様の多大なるご協力を隔りました。心より御礼申し上げます。



古地図で楽しむまち歩き

ぶらひこねマップ コース

3

花しょうぶ通りは、戦国時代をテーマにまちづくりを進める元気な商店街です。このまちのみどころは、江戸時代の城下町の町割や古民家がきれいに残っていること。古地図「御城下惣絵図」を片手に花しょうぶ通りとその周辺を歩いて、城下町の魅力がぎゅっと詰まったまちを楽しみましょう！

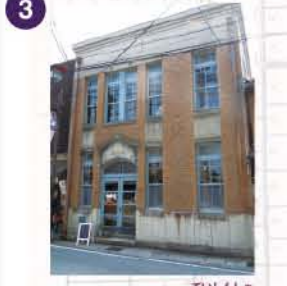




**1 滋賀中央信用金庫銀座支店**  
大正7年、明治銀行彦根支店として建てられた。複雑な屋根が美しい、久左の辻のランドマーク。国登録有形文化財。



**2 いと半壁画**  
1999年、地元大学生と商店街の皆さんが制作。彦根出身元力士蒼樹山(あおぎやま)を中心に、まちの人々が描かれている。



**3 ひこね駅の駅 通信舎**  
江戸後期の町家を昭和9年、洋風の外観に改装した旧郵便局。2012年、第3の街の駅としてオープンし、カフェ、ギャラリー、ネットラジオ局として活用されている。国登録有形文化財。



**4 ひこね駅の駅 寺子屋力石**  
江戸時代の寺子屋の建物が2005年、最初の街の駅となり、地域の拠点として活用されている。現在、ギャラリー&カフェが営業中。



**5 ひこね駅の駅 治部少丸**  
昭和13年に建てられた履物店を改装し、2015年、第4の街の駅としてオープン。石田三成や佐和山城を紹介する展示施設に生まれ変わった。



**13 しょうぶ屋**  
江戸時代末期の町家を改装した戦国グッズ専門店。正面の白壁と路地に面した板壁が特徴的。周辺には江戸時代の町家がよく残っている。



**16 旧石橋家住宅**  
江戸から明治にかけて建てられた、3軒続きの大規模な町家。かつては醤油醸造業で財を成した商家で、井戸やかまど、土蔵が残る。国登録有形文化財。



**14 森家住宅**  
江戸時代末期に建てられ、かつては生糸を生産・販売する商家だった。虫籠窓や袖壁が美しい。国登録有形文化財。



**17 みはた児童遊園**  
中野若狭下屋敷跡の一部が公園になっている。知られざる桜の名所。コンクリート製の卓球台がある。昭和から時間が止まっているかのような空間。



**15 王子稲荷大明神**  
お稲荷さんにお地藏さん、塀の向こうには旧石橋家住宅の蔵が見え、とても素敵な空間。手水舎の屋根に注目。



**18 脇伊織下屋敷庭園**  
現在の天理教彦根分教会。下屋敷だった当時の庭園が残っている。庭園奥の茶室は江戸末期のもの。※見学の際は事務所へ一声かけてください。



**19 西覚寺**  
江戸時代前期、井伊家に招かれて城下へ移転。境内の角にある太鼓楼と、本堂の屋根の波うさぎがみどころ。江戸時代よりも敷地が広がっている。



**20 モダンな和洋折衷の家**  
昭和初期に建てられた住宅。遠くからもよく見える洋風の出窓と、和風の大きな母屋屋根が絶妙に調和。

佐和山小学校

両側に美しい町家

昔は川だった湯川通り  
今は道路の下を流れる

※この辺りは城下町の範囲外で村の一部であったため、縮尺や地形表現が大まかに描かれています。



「御城下惣絵図」とは？

江戸時代の彦根城下町の様子をもっとも詳細に伝える古地図。天保7(1836)年、彦根藩の普請奉行らによって作られました。屋敷の持ち主の名前が書かれているのは武家屋敷や寺院など、書かれていないのは町人の住まいです。道幅や堀幅、屋敷の間口などの寸法まで書かれています。彦根城博物館所蔵。

凡例: 江戸時代にはなかった道、安清町、江戸時代の町名、お地藏さん、おススメ撮影スポット